

第93話 横井戸

中山町歴史散策

山腹に孔を穿ち（穴をあける）、地中や岩漿の水を集め、これを生活用水に充てている家が岡村に現存しています。辞書にもない取水装置であることから、仮に「横井戸」と呼ぶことにします。

岡地区は、シルト層の丘陵地の麓にあって、容易に鶴嘴で穿つことができます。

柏倉九左工門の横井戸は、主屋の西土蔵に近い山麓にあります。現況は坑口の幅90cm、高さ165cm、奥行き33・8m、ほぼ直線であるが途中に僅かな曲りがありやや南西に振れています。坑内は、中ぐらいの赤煉瓦で天井、側壁とも巻き立てられています。元々は素掘りであったものを明治以降に改修したと考えられます。

坑の底辺は、泥土が堆積し滲出水の水路が左右に蛇行しています。本来は側壁の下部に一段低い溝があって、

ここを滲出水が流れていたと思われまふ。

また、坑内に一部、平板の台があって陶鉢や木箱類が残されていますが、これは野菜や調理したものをこの坑の中に保存し、夏は冷蔵庫に、冬は保温庫として用いられたと伝えられています。

横井戸は、江戸時代、明治初期までは井戸として用い、水道が普及してからは、水道の予備水、洗いのもの、養魚、最終的には防火用水、農業用水に充てられました。

【用語の説明】
岩漿：地下にある流動性を有する高温のケイ酸塩混合物でマグマのこと。

※参考 中山町史 中巻
第9章第2節 冷害・旱害の記録と対策

フレッシュ通信 Vol.14

横山 雄哉さん (20歳)



- 出身 あおば
- 趣味 ゴルフ
- 好きな食べ物 オムライス
- 尊敬する人 高校時代の部活の監督。当時は厳しいと思っていたけれど、選手一人一人のことを思ってくれる方で、野球以外にも挨拶や人に対する礼儀などを教わりました。
- 横山さんにとって、中山町とは？
これからは、減多に帰ってこれられなくなってしまおうと思いますが、中山町で育ったので、やっぱり中山町が一番居心地がよく、落ち着きます。家族や友人もいるので、これからも大切な場所です。

今年のプロ野球ドラフト会議で、阪神タイガースから1位指名を受け、その活躍が期待されている横山雄哉さん。中山町初のプロ野球選手となる横山さんに、ふるさと中山町や夢についてお聞きしました。

小さい頃はどんなお子さんでしたか？

やんちゃで元気な子どもだったと思います。外で遊ぶのが大好きで、近所を駆け回っていました。あおば公園や町民プールにもよく行っていました。

野球を始めたきっかけを教えてください

小学校2年生のときに野球を始めました。きっかけは、兄や友人がやっている、その輪に入りたいと思ったからです。ポジションも、ショートや外野など、色んなところを経験しました。

プロを意識したのは？

野球を始めたときから「将来はプロ野球選手になりたい」と思っていました。周りにも公言していましたが、当時は振り返るとあまり上手とは言えなかったもので、周りは口だけだと思っていたかも（笑）。

高校まではプロはまだ夢や憧れでしかなかったのですが、社会人チームに

入って手応えを感じ、プロに行きたいという夢が「必ずプロになる」という目標に変わった瞬間がありました。ドラフトで1位指名を受けたときは驚きとうれしさが入り交じって、信じられませんでした。

僕が夢を叶えることができたのは、周りに助けられながら、あきらめずに続けてきたことが花開いたのだと思います。夢を夢のまま終わらせないので、目標を変えて努力することが大切だと、中山町の野球少年たちにも伝えたいです。

中山町の皆さんに一言お願いします

小学校のときに野球を始め、その中でたくさんチャンスをもらい、野球の楽しさと、勝つうれしさを教えてもらいました。また、人として大切な挨拶や礼儀、仲間を思いやる気持ちも野球が教えてくれました。中山町での野球経験が、今の僕の原点です。

皆さんの期待に応えられるよう、入団後は、地元中山町を背負って活躍したいと思っています。そして、県野球場でプレーし、成長した姿を皆さんに見てほしいです。大阪に行ったらなかなか帰ってこれなくなるかもしれませんが、中山町の皆さんに応援していただけたらうれしいです。

なかやまタイムスリップ Vol.19

今から46年前... 1968 (昭和43年)

芸文協発足、第1回芸文祭

芸術文化協会が新発足

今年46回を迎えた芸文祭。第1回芸文祭は現在の中山中学校落成式と一緒に開催されました。芸文祭を主催する中山町芸術文化協会はこの2か月前に発足したばかり。そんな時、ちょうど落成式が11月の文化月間と重なったため、一緒に開催することになったのです。

落成式では芸文協会のほかに中学校、同PTAの各種展示会のほか、体育協会の記念スポーツ大会といった催しが3日間

間にわたり華々しく開催され、落成式に一段と華をそえていました。

文化月間にふさわしく

十月の文化月間、代々木町に代々木文化センターが完成し、市民の憩いの場として活用されています。この文化センターは、中山町出身の建築家、小島九郎氏が設計し、建設されたものです。この文化センターは、中山町の文化の中心として活用されています。



書画展



俳句書画展



案内人 すもものしずくちゃん
すもものしずくちゃんの詳細はフェイスブックで

当時の芸文祭は「生花」「絵画」「美術工芸」「俳句書画」「写真」のほか、今では珍しい「古銭」や「切手」なども展示されていたんです。